

○基本方針

近年、少子高齢化や人口減少、単身世帯の増加といった社会構造の変化により、人と人とのつながりの希薄化、住民の孤立化が一層顕著に表れ、福祉ニーズの複雑化・複合化が進んでおります。

こうした福祉ニーズに対応するため、地域住民や多様な主体が互いに支え合いながら暮らしていくことのできる「地域共生社会の実現」は喫緊の課題となっています。

本会においては、令和6年度から名古屋市社会福祉協議会と連携し、包括的な相談支援体制の構築を図る「重層的支援体制整備事業」（市受託事業）を実施してまいりました。令和8年度も引き続き、既存の仕組みだけでは十分な支援につながらない複雑化した課題を抱える世帯に対し、様々な機関や団体、行政などと連携しながら支援を進め、「地域共生社会の実現」を目指してまいります。

また、「第5次千種区地域福祉活動計画」の3年目である令和8年度は、区民の皆様への積極的な広報に努めるとともに、推進委員の皆様と協働し、計画的に地域福祉活動を実践していきます。実践に際しては、全学区の地域福祉推進協議会をはじめ、福祉関係機関・団体、福祉サービス事業所、ボランティア、NPO、区役所などの行政と連携を図りながら、本会の理念である「誰もが安心して生活できる千種区」を目指してまいります。



マスコットキャラクター
「ユーカーナ」

1 「第5次千種区地域福祉活動計画」(第5次活動計画)の推進

「誰もが安心して生活できる千種区」を目指し、第5次活動計画(計画期間:令和6年度から令和10年度までの5か年)を、区民の皆様をはじめ、関係機関・団体、福祉サービス事業者や行政などと連携・協働しながら推進します。

活動計画の推進は、計画の3つの柱ごとの推進グループを中心に行います。推進グループは定期的に会議(打合せ)を行い、事業の実施や検討等を行います。3つの推進グループが集まる「全体会」を年2回開催し、第5次活動計画の進捗状況の確認や評価等を行います。



第5次活動計画推進委員会「全体会」の様子

取り組みの一例

(1)「つどい」グループ

つどいグループでは、地域活動への参加や社会活動への参加を促し、住民同士が心のつながりを感じられるような取り組みを引き続き実施してまいります。

①「ちくさボランティアフェスタ2026」

令和8年6月6日、千種区でボランティア活動を行っている方、これからボランティアを始めようと思っている方、ボランティアとつながりたい方とをつなぐ交流イベント「ちくさボランティアフェスタ2026」を、モビリティゲート吹上にて開催します。



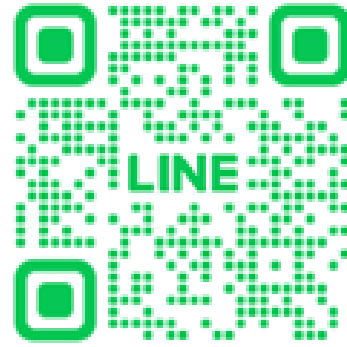
「ちくさボランティアフェスタ2025」の様子
(ボランティアグループ「すけっと工房」の発表)

②「千の種プロジェクト」

「千の種プロジェクト」では、認知症啓発につながるオレンジ色の花(マリーゴールド・黄花コスモス・金せん花・カリフォルニアポピー)をそれぞれの場所で育て、つながりを実感できるよう、SNSでの情報発信にも努めてまいります。



「千の種プロジェクト」種の配布
(千種区在宅サービスセンター)



「千の種プロジェクト」
公式ライン開設

(2) 「はぐくみ」グループ

① 「子どもたちの学び応援広場」の開催

子どもたちのニーズを把握し、悩みごとの解決や成長につながる企画を実施します。また、子どもたちが学んだことを継続し、実施していく場所や発表できる機会を設けます。



しんぱスクール
(千種児童館)

② 「スマートフォン講習会」の開催

高齢者の方向けにサロンや地域支えあいを実施している学区で、大学生のボランティアに依頼し「スマホ講習会」を行います。

また、子どもたちが安心・安全にスマートフォンを利用できるよう、親子などを対象とした講習会も行います。



スマートフォン講習会
(千種区在宅サービスセンター)

（３）「はたらきかけ」グループ

①「あったかお便り＆あったかＳＮＳ交流」の推進

地域との関りが少なくなった高齢者へ福祉情報紙などを届け、見守るとともに困りごとの解決を目指す「あったかお便り事業」を継続して実施します。

さらに、ＳＮＳを活用し「あったかお便り事業」の対象を全世代に広がめます。

②「年齢や属性を問わない地域づくり」の推進

人との関わりが少ない高齢者や重層事業対象者、SNS でつながっている若者、留学生などの対面での交流の場として、ワークショップを開催します。普段出会うことのできない多世代・多文化の交流をきっかけに、それぞれができることを考え、地域に働きかけていきます。



ワークショップの様子
(覚王山ランチ)



千種区在宅サービスセンター玄関に
飾られた利用者の作品

２ 「地域福祉活動」の推進

（１）「地域福祉推進協議会」（推進協）への支援

各学区に組織される推進協と連携し、地域の福祉課題解決に向けた取り組みを行います。住民同士の交流を深める「サロン」をはじめ、「ふれあい給食サービス事業」「ふれあいネットワーク活動」などの活性化に向け、従来どおり、各学区ごとに担当職員を配置し、きめ細やかな支援にあたります。また、推進協構成員を対象とする研修会の開催をはじめ、名古屋市社会福祉協議会などが主催する研修への参加をとおして、各学区の推進協の活動の活性化に努めます。

(2)「地域支えあい事業」への支援 **市受託事業**

住民同士の助け合いによる困りごとの解決などを目指す「地域支えあい事業」の実施学区拡大を目指し、各学区の会合などに出向き、働きかけます。

また、本事業に取り組む6学区（千石・内山・春岡・自由ヶ丘・富士見台・千代田橋）の事業活性化に向け、ご近所ボランティアを対象とした「研修会」を開催するとともに、本事業の認知度向上を目指し、地域のイベントや会合に参加し、広報活動に努めます。



令和7年度地域支えあい連絡会議
(春岡学区)



令和7年度地域支えあい研修会
(自由ヶ丘学区)

(3)「高齢者サロンの整備等生活支援推進事業」の推進 **市受託事業**

①「高齢者ふれあい・いきいきサロン」(サロン) への支援等

仲間づくりや介護予防などを目指す「サロン」の活性化を図ります。認知症やフレイル予防などの知識を深める学習やサロン運営上の情報交換を行う「サロン運営者育成研修」(3回)をはじめ、サロン参加者の増加に向け、区民まつりや地域イベントなどでの「サロン出張説明会」を行います。

また、子ども食堂の運営者を対象に「子ども食堂交流会」を年1回開催し、子ども食堂運営者のつながりづくりを支援します。



サロン出張説明会
(いきいき今池お祭りウィーク 2025・生涯学習センターまつり)

②「生活支援連絡会」の開催

地域住民が安心して生活できるよう支援することを目的に、あらゆる世代の生活課題の検討に向けて、生活支援サービスの充実とサロンの質・量の拡充に向けた方策等を協議します。(年2回開催)

(4)「高齢者はつらつ長寿推進事業」(はつらつ事業)の実施 **市受託事業**

高齢者などの介護予防や仲間づくりなどを旨とする「はつらつ事業」を、コミュニティセンターなどの8会場で実施します。

また、事業参加終了後、参加者が地域活動やボランティア活動につながるよう、きめ細やかな相談と支援を行います。

(5)「寝具クリーニングサービス事業」の実施

布団を干すことが困難な65歳以上のひとり暮らしの方などを対象とした「寝具クリーニングサービス事業」(11月以降)を実施します。民生委員の皆様の協力をいただき、高齢者の生活環境の向上と高齢者の見守り活動を支援します。

(6)「キラキラ☆サンタ事業」の実施

「花水木鯉城会」(高年大学鯉城学園卒業生で結成)などの協力をいただき、民生委員の皆様が中心に取り組む子育てサロンや保育園などへサンタクロースやトナカイを派遣する「キラキラ☆サンタ事業」(11～12月)を行います。本事業をとおして、子育て世代の意見・要望などの把握に努めながら、今後の子育て支援活動に活かします。



お母さんたちも大喜びの「キラキラ☆サンタ事業」

（７）「名古屋市いこいの家事業」の実施 市受託事業

言葉や心身の発達の遅れが気になる子どもとその保護者を対象に、千種児童館などで親子遊びや相談会などを行い、保護者の不安や悩みの解消、保護者同士の仲間づくりを行います。

（８）「福祉関係団体等」への支援

共同募金の配分金を財源に、高齢者福祉活動（学区敬老事業助成、ふれあい給食事業助成など）、障がい児・者福祉活動（手をつなぐ育成会が行う福祉活動への助成など）、児童・青少年福祉活動（子ども会活動、学童保育活動への助成など）、住民全般福祉活動（推進協あんしん事業助成など）などへの事業助成を行います。

３ 「ボランティア活動」の推進

（１）「ボランティアセンター」の運営

ボランティア活動の推進拠点として、ボランティア活動に関する各種相談、情報提供などを行う「ボランティアセンター」を運営し、ボランティア活動の促進を図ります。

（２）「ボランティア」への支援

「千種区ボランティア連絡協議会」（ボラ連）と協力し、子どもたちの学習支援や交流企画を行いながら、新たなボランティアの確保を目指します。また、在宅サービスセンターのボランティアルーム、研修室、調理実習室などの場所の無償貸し出しと各種相談に応じながら活動を支援します。



**ボラ連が行う学習支援事業「しんぼスクール」
（千種児童館）**

（３）「福祉教育」の実施

ボランティア団体などと連携し、小・中学校や地域等に出向き、高齢者疑似体験やアイマスク体験、障がいのある方との交流を図りながら、子どもたちの福祉に関する理解促進とボランティア活動への参加促進を目指します。



留学生への点字ブロック体験
(NSA 日本語学校)



車椅子体験
(自由ヶ丘小学校)

(4)「各種養成講座」の開催

第5次活動計画などと連携し、ボランティアなどの担い手を増やすための養成講座を開催します。



コーヒーボランティア養成講座「コーヒー淹れま専科」

(5)「災害ボランティア」などとの連携

災害ボランティアちくさネットワークと連携し、大規模災害発生時に名古屋市からの要請で設置する「災害ボランティアセンター」の設置運営訓練を実施するとともに、区総合水防訓練、区総合防災訓練へ参加します。

また、地域（防災）イベントや学校などに出向いて防災啓発を行うとともに、区役所や企業などと協働し「ぼうさいカフェ」を定期的で開催するなど、防災に関する啓発活動を行います。



災害ボランティアセンター設置運営訓練
(モビリティゲート吹上)



地域（防災）イベント「2025 家族でまなぼうさい」
(モビリティゲート吹上)

4 重層的支援体制整備事業（重層事業）の実施 市受託事業

既存の介護、障がい、子ども、生活困窮の相談支援機関等の取り組みを活かしながら、地域住民の複雑・複合化した支援ニーズに対応する包括的な相談支援体制を構築するため、本会におかれる包括的相談支援チームが中心となり、様々な機関や団体、行政と連携しながら、「多機関協働事業」、「アウトリーチ等を通じた継続的支援」、「参加支援・地域づくり支援」の3つの事業を柱として一体的に行います。

(1) 多機関協働事業

生活課題が複雑化・複合化し、相談支援機関同士の横の連携では対応が難しい場合、包括的相談支援チームが全体のコーディネートを実施するなど相談支援機関同士の連携の強化を図ります。



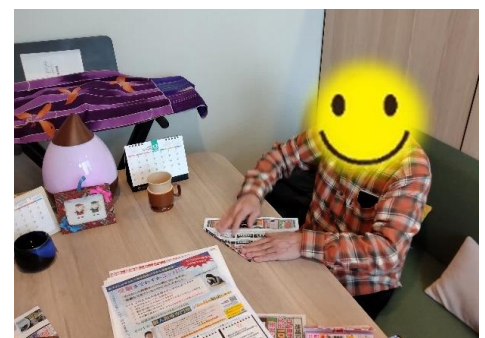
重層的支援会議の様子

(2) アウトリーチ等を通じた継続的支援

長期にわたりひきこもりの状態にあるなどして必要な支援が届いていない世帯に、地域住民や相談支援機関と連携し訪問など行い、信頼関係づくりを行います。

(3) 参加支援・地域づくり支援

社会から孤立している人や生きづらさを感じている人が、社会や地域とつながることができるよう社会参加への段階的な支援を実施し、誰もが参加できる地域づくりを目指します。社会参加の準備の場として「覚



支援メニューの一例
(チラシのごみ箱づくり)

王山ブランチ」を開設し、本人や世帯の支援ニーズや状態に合った支援メニューを提供します。

5 「広報活動」と「財政基盤強化」の推進

(1) 本会広報紙「はなみずきのまちだより」の発行

区民の皆様には有益となる福祉情報を掲載した広報紙を年3回発行（7・11・3月）します。在宅サービスセンターをはじめ、区役所、コミュニティセンター、福祉情報配置店（※）などに配架するとともに、各学区の回覧板でお届けします。

※福祉情報配置店は、第4次活動計画の取り組みで、本会広報紙などの福祉情報紙の配架にご協力いただいているスーパーや病院などです。区内に149ヶ所（令和8年2月末現在）あります。

(2) 「ホームページ」「Instagram」の運営

ホームページによる情報発信を行うとともに、Instagramではタイムリーな情報発信に努め、地域イベントの情報やボランティアの情報などを定期的に発信します。



「福祉情報配置店」
（春岡コミュニティセンター）



フォロワー4,500人を超える「Instagram」



(3) マスコットキャラクター「ユーカリーナ」を用いた広報

第4次活動計画策定時に誕生した本会マスコットキャラクター「ユーカリーナ」は、Instagram、各種パンフレットなどで、本会の知名度向上に一役買っています。

また、「ユーカリーナ」を助け出す「救出ゲーム」や「ユーカリーナガチャガチャ」に加え、毎年作製する新たな「ユーカリーナグッズ」を用いて地域イベントなどに出向き、福祉情報の発信に努めます。



新たにマグカップと単色ボールペンを制作しました

(4) 賛助会員の募集

町内会・自治会をはじめ、民生委員の皆様などのご協力をいただきながら、本会が取り組む各種事業の財源基盤となる賛助会員を募集します。

【参考】個人1口500円 法人・団体1口5,000円



(5) 赤い羽根共同募金（共同募金）運動への協力

千種区共同募金委員会の事務局を運営し、共同募金の周知・広報に努め、町内会や自治会をはじめ、民生委員の皆様などのご協力をいただきながら運動を進めます。

また、企業・各種団体への募金依頼をはじめ、地域イベントや街頭での募金活動、ユーカリリーナグッズを活用し、募金の増強に努めます。



覚王山駅前での街頭募金



区民まつりでの街頭募金

6 「生活福祉資金貸付事業」の実施

愛知県社会福祉協議会から業務を受託し、低所得者世帯、高齢者世帯、障がい者世帯などに対し、民生委員の皆様をはじめ、名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター、行政機関等と連携し、資金貸付と援助指導を行うことで、援助世帯の安定した生活基盤の確立を目指す生活福祉資金貸付事業を行います。

7 「デイサービスセンター」の運営

利用される方の心身機能の維持やご家族の介護負担軽減などを図るため、通所介護事業を実施します。健康チェックをはじめ、入浴、昼食、レクリエーション、口腔ケア機能向上事業などを行いながら、利用される方の自立した日常生活の維持・向上に努めます。また、昼食はボランティアグループ「はなみずき」の協力のもと、愛情たっぷりの“手作り料理”を提供します。



愛情込めて料理を作る
ボランティアさん

8 「都福社会館・千種児童館（なごホーム）」の管理運営 指定管理事業

令和7年度から令和11年度までの5年間、引き続き本会が指定管理者として管理運営を行います。

（1）福社会館の主な実施事業

- ①生活、健康相談などの相談事業
- ②教養の向上及び趣味・レクリエーションに関する事業
- ③機能回復訓練
(リハビリ体操、健康体操、リズム体操、筋トレッチ体操)
- ④健康づくり事業（医師の健康講話、音楽療法等）
- ⑤仲間づくり、憩いの場の提供（同好会活動、入浴事業等）
- ⑥名古屋市北部回想法センターの運営
- ⑦高齢者サロンでのレクリエーションなど地域と連携した事業
- ⑧認知症予防事業（市受託事業）



「くらぶ6・5（認知症予防教室）」での
認知症予防リーダーによる回想法

（2）児童館の主な実施事業

- ①子どもの育成活動（多様な企画、季節行事等）
- ②子育て支援活動（乳幼児を対象としたリトミ



なつやすみおはなし会

ック、ふれあいあそび、育児相談等)

③地域福祉促進活動

④留守家庭児童健全育成事業

⑤中高生の居場所づくり事業

⑥移動児童館などの地域と連携した事業



ちびっこクリスマス会

9 「名古屋市社会福祉協議会事業」への協力

(1) 「千種区西部いきいき支援センター（地域包括支援センター）」への協力

① 区域の地域包括ケアシステムの構築

ア) 区地域包括ケア推進会議 事務局の運営協力

イ) 区地域包括ケア推進会議 認知症専門部会の運営協力

② 高齢者に関する相談事業（総合相談・権利擁護）

③ 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援

④ 包括的・継続的ケアマネジメント支援

ア) 民生委員と介護支援専門員の情報共有同意書の運用

イ) 介護支援専門員向け講座の開催 ウ) ケアマネサロンの実施

⑤ 高齢者見守り支援事業の実施

⑥ 認知症の人を介護する家族支援事業の実施

⑦ 認知症地域支援推進員との連携

⑧ 認知症サポーターの養成・活動支援

⑨ 認知症カフェの開設・運営支援

⑩ 認知症初期集中支援チームとの連携

⑪ ちくさ区認知症予防体操の普及啓発

⑫ チームオレンジ（認知症の人が住み慣れた地域で本人が望む生活を続けていけるよう、本人や家族の支援ニーズと認知症サポーターの支援をつなぐ取り組み）との連携



「チームオレンジ」と第5次活動計画の連携事例
(チームオレンジ会議でのコーヒー淹れ方講座)

（２）「千種区介護保険事業所」への協力

①訪問介護（なごやかヘルプ）事業の実施

- ア）高齢者への訪問介護・介護予防訪問介護事業の実施
- イ）予防専門型訪問サービス（介護予防・日常生活支援総合事業）の実施
- ウ）障がい者等の居宅介護事業・移動支援・同行援護・重度訪問介護
- エ）産前・産後、ひとり親、養育支援などの家事介護サービス
- オ）制度では対応できない外出支援、通院介助などの生活応援サービス

②居宅介護支援事業の実施